

科目名	理学療法評価学			ナンバリング	ZSE246	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	古川勉寛	担当教員	○古川勉寛				

授業の概要	評価とは、様々な検査結果を統合して対象者の臨床像を明らかにすることである。それは、理学療法の対象となる医学的な問題点のみならず、人間としての生活(身体機能、精神機能、社会適応能力、家庭環境、経済状況なども含む)の状況を明らかにすることに等しい。このように、理学療法では単に医学モデルの中の情報だけではなく、様々な環境要因まで分析する必要がある。この科目では「評価とは何か」を理解するために、医学的、社会的、教育学的、倫理的側面などから個人をどのようにとらえるかについて学ぶ。		
到達目標	○理学療法における評価の基本概念について、説明できる。 ○理学療法の過程と観察活動について説明できる。 ○初診時面接の方法について説明できる。 ○理学療法における医学的情報の必要性について説明できる。 ○検査・測定項目の概要を説明することができる。 ○基本的な姿勢・動作の観察と分析の流れについて説明できる。 ○日常生活活動評価の目的と評価尺度について説明できる。 ○情報の統合と解釈に向けた手順について説明できる。		
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	評価は、理学療法の中で重要な位置を占めることから、「評価の基本概念」や「観察・情報収集」および「各検査・測定の意義や定義および注意点」が重要です。そのため、教科書を中心に予習を行うことが望ましい。また、講義中や講義後に理解できなかった箇所について質問し、即時的に解決を図ることをお勧めします。復習は、教科書や講義中に配付した資料を中心に学修することをお勧めします。		
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】		
		1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を身につけている。
	○	2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。
		4	健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
○理学療法における評価の目標、流れ、記録について、説明できる。 ○情報収集の面からみた理学療法過程について、フローチャートを作成することができる。 ○診時面接の流れについて説明できる。 ○理学療法における医学的情報の項目をあげることができる。 ○各検査・測定の意義と定義について説明することができる。 ○基本的な姿勢・動作について観察の要点をあげることができる。 ○日常生活活動評価の目的と評価尺度の種類を説明できる。 ○情報の統合と解釈に向けたKJ法の手順について説明できる。	○理学療法における評価の目標、流れ、記録および課題について、説明できる。 ○情報収集の面からみた理学療法過程について、フローチャートを作成し、説明することができる。 ○初診時面接の流れと要点について説明できる。 ○理学療法における医学的情報の項目をあげ、特徴を説明できる。 ○各検査・測定の意義と定義および方法について説明することができる。 ○基本的な姿勢・動作について生体力学的基礎と観察の要点について説明することができる。 ○日常生活活動評価の目的と評価尺度の種類および特徴について説明できる。 ○情報の統合と解釈に向けたKJ法を用いて図解化することができる。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	○	○					80%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート		○					20%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	manabaを使用して、フィードバックを行う。
---------------	-------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	理学療法評価とは	理学療法と評価およびリスク管理、評価の基本概念(評価の目的、視点、流れ、記録)、国際障害分類試案と国際生活機能分類について学ぶ。	
	第2回	観察と情報収集について	評価の基本姿勢、観察・面接・問診、医学的情報、社会的情報について学ぶ。	
	第3回	検査・測定について①	高次脳機能障害、触診と形態計測、関節可動域、筋力の測定と意義について学ぶ。	
	第4回	検査・測定について②	感覚、反射・筋トーン、姿勢筋緊張、協調運動機能の測定と意義について学ぶ。	
	第5回	動作分析と日常生活活動について	姿勢・動作分析に求められる生体力学基礎、運動制御のモデル、基本的姿勢・動作の観察と分析について学ぶ。また、日常生活活動の評価目的と評価尺度を学ぶ。	
	第6回	統合と解釈について	情報の統合と解釈から理学療法の標的を決定するための手法と目標設定および治療計画の立案について学ぶ。	
	第7回	疾患・障害別評価のポイントについて	神経・筋系、骨・関節系の評価について要点(リスク管理を含む)を学ぶ。	
	第8回	検査バッテリーと評価表について	機能評価の手段と目的、outcomeと機能評価、検査バッテリーの構成要素について学ぶ。	
	試験	全8回終了後に、定期試験(筆記試験)を実施する。		
授業の進め方		講義形式で進め、途中で質疑応答の時間を設ける。		
授業外学習の指示		教科書を中心に予習を行うことが望ましい。復習は、教科書や講義中に配付した資料を中心に学修することをお勧めします。 (授業外学習時間: 毎週 220 分)		

教科書	奈良 勲(監修), 編集:内山 靖(編集). 標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学. 医学書院. 5,800円(税別)、ISBN:978-4-260-26676-5
参考書	市橋則明(編集). 理学療法評価学障害別・関節別評価のポイントと実際. 文光堂. 7,000円(税別)、ISBN978-4-8306-4537-2
参考URLなど	なし
その他	なし